毎週金曜日
夜七時より
市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

みんなで つくろう
みんなの 会館

三人よれば何とかの知恵

夜間学校ニュース

1988年1月22日
西成区萩之茶屋2の8の9 旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

夜間学校 今年初会合 よろしく おつきあいを

明けまして、おめでとうございます、は、もうマが抜けているが、釜ヶ崎夜間学校は今年になってはじめてだから、とりあえず、ご挨拶。

仲間の中には十日エビスどころか、二十日になってようやく初出、というユウがな人もいるから、多少、マが抜けているが、よしとしてもらうことにするか。

今年は辰年、なにやら波乱にみちた年になりそうという声が高い。

釜についていえば、年明けから仕事の動きは早く、量もある。この調子でいけば、四月と七月にかけての落ち込みも、今年は例年ほどではなさそうだ。

しかし、後半は、民間の仕事が落ち込み、冷え込むという予想もある。

現代の経済の動きは、気分、お天気まかせのような

仲間の死

本籍・住所不詳、氏名日下金次、昭和8年1月25日生、男性、身長160cm、茶色作業服上着、紺色ポロシャツ、紺と灰混合色ズボン、遺留品、指輪、紺色カバン等

右の者は、昭和58年12月17日、大阪西成方面より来奈、作業終了同日午後5時頃、帰路途中、王寺町にて意識不明となり県立三室病院に入院、昭和60年4月11日、午後11時55分死亡、なお、身元引取人不明につき遺体は、死体解剖保存法に基づき県立医科大学附属病院に保存してあります。心当りの方は、三郷町役場まで申し出て下さい。

昭和60年5月23日
奈良県 三郷町長

(官報掲載のものを"釜ヶ崎白書"より転載)

日下金次さんは約一年五ヶ月にわたる入院中、意識が戻ることなく死んだのだろうか、それとも、自ら、黙したまま死んでいったのだろうか。いずれにしても働いているから健康とは限らぬ。(合掌)

在日朝鮮人・韓国人の
指紋押なつ拒否断固支持!

定住外国人に市民権を

ところが多分にある。ようするに財テク・土地コロガシの世の中で、昔からゲンかつぎの強い業界の動向で、世の景気が左右されやすくなっている。後半、夜間の仕事が落ち込み、さらに円高が進み、そして、天皇が死ねば、これはもう、恐慌だ。天皇の葬式は、貧乏人の葬式とちがって、一日や二日ではかたづかない。少なくとも次の天皇の即位式のおこなわれる三年ぐらいは、喪章の黒が世をおおい、内需拡大のお祭りは一休みとなって不景気となる。一九七五年の再来だ。

マ、年明けそうそう根クラなことを書いているが、こんなことを想像するときにいつも思うのは、日雇の底の浅い生活のことだ。

最近は、四月〜七月にかけての仕事の落ち込みが毎年あることが、あたりまえのようになっているので、今、現在、仕事が多いからといって、あまりノンキにかまえている人はいないだろう。

ついこないだまで、正月にそなえて働いたのに、もう四月からの落ち込みの心配をしなければならない。

仕事の落ち込みだけが心配のタネではない。人間だれしも年をとり、体力がおとろえる。そのことによる就労日数の減少も心配のタネだろう。転業はキビシクなる一方だし……。

こんなこと判りきったことだが、だからこそ、ギャンブルや酒で、デズラがドヤまでもたない仲間も多い。

こんなことばかり考えていれば、とても日雇いなどやってられるものではないが、一方、日雇であり続けなければならない現実がある。

袋小路の中に入り込んだようなものだが、だからこそ夜間学校は頼りないと思われているだろうと承知の上で、皆と一緒に考え、悩むことを続けていきたいと思っている。

今年の夜間学校は、釜の仲間の個々の話からは少しはなれて、釜ケ崎のあるいは全国の日雇労働者全体が層として、集団として、今の社会の中で果している役割、逆にいえば、になわされている役割、社会の中での位置といったようなことを重点に話し合っていきたいと考えている。

思うに、日雇いは、これまで自分の意志を通そうとすれば、負ける形をとるしかないと思い定め、生活してきたといえる。

トンコがまずその代表的なものだといえる。

現場や飯場でのあしらいが悪く、不当に屈服を強いられた時、自己の意志表示としてトンコする。

トンコして損をするのは、労働者の方だ。トンコする時に、キッチリ金をとってくる仲間は少ない。逆にトンコされた側は、そんなに損害は生じない。

トンコするのはゼニ金離れた心意気の問題だ。それがなくなったらもうおしまいだよ。の声も聞こえそうだ。

だが、その姿勢が生活全般にわたるとき、野垂れ死に結びついていく。

層としての日雇労働者を把握することによって、別の生きざまが見えてくるのではないか。